

1975年白鳥座新星—岡山—

石田五郎

8月29日：当夜観測所の泊り番であった私の許に、倉敷の本田実氏から電話をいただいたのは 23<sup>h</sup>45<sup>m</sup>であった。“デネブの北東約5°に新星らしいものがある。光度は3等級、概略位置はSAO星図で 21<sup>h</sup>10<sup>m</sup>, +47°50'”というので、ドームの外に出てみたが全天雲におおわれている。とりあえず東京天文台の香西洋樹氏にこの旨を通報、東京は曇天であるという。188センチは広島大の内海和彦氏のクーデ分光器観測、91センチは当所市村喜八郎氏の三色測光観測である。25<sup>h</sup>雲がきれば始める。ふり仰ぐと白鳥座の尻尾の先に見知らぬ星が見える。両望遠鏡とも観測配置につく。クーデ焦点でも数分の露出でスペクトルがとれる。やや露出オーバー気味であるが吸収線のままで見えないノッペラボーのスペクトルである。雲が多くて測光精度は悪いが、V光度 3.42±0.05等と出る。“新星に間違いない”と本田氏へ電話。

8月30日(土)：午後東京で記者会見があると聞く。28日夜91センチで分光観測をしていた当所の乗本祐慈氏はデネブのスペクトルをとったが、この星には気がつかなかったと残念がる。188センチ：クーデ観測(分光)、91センチ：分光スキャン観測、30センチ：三色光観測。観測員を増強する。私は下山して待機、問合せの電話をひきうける。光度は 19<sup>h</sup>30<sup>m</sup>に 2.05等、23<sup>h</sup>に 1.86等と急激な増光を認める。スペクトルは高分散では幅広い輝線とD, H, Kの星間吸収線しか見えないが、低分散では吸収線らしいものがおぼろげに見えるよう。

新聞社からの電話は夜どおしで、夏休み最後の土曜のせいか夜空を眺める人が多いようで、“見知らぬ星”の独立発見(?)の通報も二、三くる。UFOの通報も来る。

8月31日(日)：同じ観測態勢で、雲は多いが終夜晴れつつける。分光スキャンでは輝線の増強が確認され、光度は 20<sup>h</sup>→25<sup>h</sup>の間に 2.05→2.20等の減光を確認。

光度極大は31日の昼間であった。“超新星ではないか?”という質問電話が報道関係からしきりにかかってきたが、その可能性の望みは殆んどない。

9月1日より4日まで：188センチクーデ分光、91センチ分光スキャン、30センチ測光、光度は 2.86, 4.22, 4.75, 5.15等と確実に減小。普通の新星より早目に星雲線が現れ始める。パルマー輝線が4分割されているのも特徴。

9月5日以降：91センチ分光および分光スキャン、30センチ測光。台風が発生したが毎夜何がしかの晴間があり観測が1日も欠けなかったのは幸運であった。

(9月9日記)

白鳥座新星の発見と通報—三鷹—

香西洋樹

久し振りの肉眼新星として発見された白鳥座の新星は、その出現位置も見やすかったせいか最初の発見に引き続いて多数の発見の通報を受けた。東京天文台に通報が到着した順と発見時刻などは次の通り。

発見者	発見時刻 (J.S.T.)	通報発信	受信
本田 実	8月29日 22 <sup>h</sup> 40 <sup>m</sup>	29日 23 <sup>h</sup> 47 <sup>m</sup>	電話
日本大学 天文研究会	8月30日 01 <sup>h</sup> 00 <sup>m</sup>	30日 03 <sup>h</sup> 10 <sup>m</sup>	電話
(30名)			
長田健太郎	8月29日 20 <sup>h</sup> 30 <sup>m</sup>	30日 01 <sup>h</sup> 10 <sup>m</sup>	04 <sup>h</sup> 20 <sup>m</sup>
橋本 就安	8月30日 03 <sup>h</sup> 40 <sup>m</sup>	30日 05 <sup>h</sup> 00 <sup>m</sup>	05 <sup>h</sup> 45 <sup>m</sup>
伊藤 茂	8月29日 24 <sup>h</sup> 19 <sup>m</sup>	30日 10 <sup>h</sup> 15 <sup>m</sup>	電話

東京天文台では、本田実氏の通報により観測の態勢をとり、幸い岡山天体物理観測所で発見直後の増光中のスペクトル観測に成功した。I. A. U. の天文電報中央局へは、本田実氏の通報にもとづいて直ちに第一報を打電した。その後、残りの1グループと3名についても独立発見として打電した。その後も発見の通報があいつぎ、9月1日までには総数30通にも達した。

1975年8月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	1,	22	6	2,	6	11	2,	15	16	4,	16	21	3,	13	26	3,	32
2	1,	17	7	2,	15	12	—,	—	17	3,	11	22	3,	14	27	2,	37
3	2,	14	8	2,	12	13	—,	—	18	3,	18	23	3,	15	28	2,	21
4	—,	—	9	1,	16	14	—,	—	19	4,	29	24	3,	15	29	3,	20
5	—,	—	10	—,	—	15	4,	39	20	4,	9	25	3,	16	30	3,	14
															31	3,	14

(相対数月平均値: 32.0)

昭和50年10月20日	発行人	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
印刷発行	印刷所	〒112 東京都文京区水道2-7-5	啓文堂 松本印刷
定価 300円	発行所	〒181 東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
			電話 武蔵野 31局 (0422-31) 1359
			振替口座東京 13595